

春岡村の伝説

・春岡村に伝わる物語一・・・

春岡村は明治二十五年、深作村、丸ヶ崎村、小深作村、宮ヶ谷塔村の四つの村が一緒になっ
てできました。今回は深作村の貝崎に住んでい
たという盗賊のお話です。

●早鐘五蔵

これは昔、深作貝崎の長老坊に住んでいた盗
賊である。

彼はこの近在切つての盗賊だったが、彼の仕
事場は、必ず自分の村を中心として五里以外の
土地だったと。彼はまた力もあつたし、走破力
も相当に強かつたとのことである。

或る日のこと。この長老坊に近在の若人が集
まり、肴は自分等が作るから酒手の方は頼むと
五蔵に言ったところ、彼は心よく引き受けて、
その夕方約五里もある鴻巣まで行き、その土地
きつての豪家横田という家に忍び入り、予定通
り仕事をして帰ってきた。彼が帰つても肴の料
理は未だ出来ていなかったと。

五蔵の力はまた驚くばかりで、これはと思う
家に入ると、必ず米俵を両脇に一俵ずつ抱え、
更に口に一俵くわえて持ち出すのだと。そして
万一の場合には口の一俵を落して逃げればいか
な追手でも安心して追つてこないと言っていた
とのことである。



(平山由喜)

また、彼の足の早い点については一反の反物
(二丈八尺)を腰につけて走つてもその先端が地
につかないくらいだったということである力も
あり、足も早いし、仕事も巧みだったので、感心
した話ではないが、その乾分も二十人からいた
とのことである。

長老坊は深作の西部字貝崎(貝崎公園あたり)にあつ
た元、宝積寺の隠居所だった所のことである。敷地は百
十三坪あつた。

地元の話では、この辺りは昭和三十年代まで春岡
小学校にかけて樹木が生い茂りうっそうと暗いところだ
つたそうです。

.....
.....
.....

出典・銭場佐一郎『思い出の春岡』(図書館蔵)
明治三十四年深作生まれ。教職の後、村の助役、村会議員を歴
任。学生時代に春岡村の郷土史を編むことを志し昭和四
十三年に完成。